

第2次大分県有機農業推進計画

平成29年3月
大分県

目 次

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	
2 計画の位置づけ	
3 計画期間	
第2章 推進計画の基本理念	2
第3章 これまでの取組状況	3
1 有機農業の取組状況	
2 流通販売支援状況	
3 技術開発・普及の取組状況	
4 消費者の理解と関心の増進、消費者と農家の相互理解	
5 市町村の推進計画策定状況	
第4章 有機農業の推進における課題	7
1 有機農業者の視点からみた課題	
2 流通業者・販売業者・実需者から見た課題	
3 消費者からみた課題	
第5章 有機農業の推進に関する目標	8
1 有機農業の拡大	
2 市町村の推進計画策定状況	
第6章 施策の展開方向	9
1 有機農業者の確保・育成	
2 有機農産物等の流通・販路拡大	
3 有機農業に関する技術の開発・普及	
4 有機農業に対する消費者等の理解の促進	
第7章 有機農業の推進体制	11
参考資料	12
平成28年度有機農産物に関する消費者意識調査（大分県調査）	

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

平成18年12月に施行された「有機農業の推進に関する法律（以下「有機農業推進法」という。）においては、有機農業は農業の自然循環機能を大きく増進し、農業生産に由来する環境への負荷を低減するものであるとされています。この「有機農業推進法」並びに平成19年4月に公表された「有機農業の推進に関する基本的な方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、本県では平成21年2月に「大分県有機農業推進計画」を策定（平成24年3月には一部見直し）し、有機農業の推進に関する各種の関連施策を実施してきたところです。その結果、県内における有機農業の取組は増加傾向にあり一定の成果が得られています。

一方、新たに有機農業に取り組もうとする人や有機農業により生産される農産物に対する需要の増大が予想され、国では平成26年4月に新たな基本方針を公表し、おおむね平成30年度までに、我が国の耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を倍増（0.4%→1%）させる目標を設定するなど、有機農業の一層の拡大を図ることとしています。

県としてもこれらの状況を踏まえ、有機農業の推進に関する各種施策をさらに強化し、取り組んでいく必要があります。そのため、本県農業をめぐる情勢の変化や有機農業の実態等を踏まえて課題を整理し、今後の有機農業の推進に関する具体的な施策の展開方向を示す「第2次大分県有機農業推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定します。

2 計画の位置づけ

この推進計画は、有機農業推進法第7条に規定される都道府県計画として位置付けるとともに、平成26年4月に国が公表した基本方針に即して策定するものです。また推進に当たっては、有機農業に取り組む農業者（以下「有機農業者」という。）等の自主性を尊重するとともに、平成27年12月に策定した大分県農林水産業振興計画「おおいた農林水産業活力創出プラン2015」や関連方針等と整合性を図りながら、取り組むこととします。

3 計画期間

この推進計画は平成29年度から概ね5年間とします。

なお、有機農業を含めた農業を取り巻く情勢の変化に的確に対応するため、必要に応じて適宜見直しを行うこととします。

第2章 推進計画の基本理念

本格的な人口減少社会の到来やグローバル化の進展、ライフスタイルの変化、地方創生という地域間競争への対応など本県農業を取り巻く環境は近年、大きく変化しています。また県土の7割を占め高齢化が進む中山間地域の活力維持に向け、所得向上の施策が必要となっています。このため市町村や有機農業を推進する団体等との連携を強化し、中山間地域の特性を生かした有機農業による高付加価値農産物の生産拡大と有機農業者の経営の安定化に取り組み、魅力ある儲かる農業としての実現を図ります。

なお、有機農業推進法に規定する基本理念に即した展開を進めます。

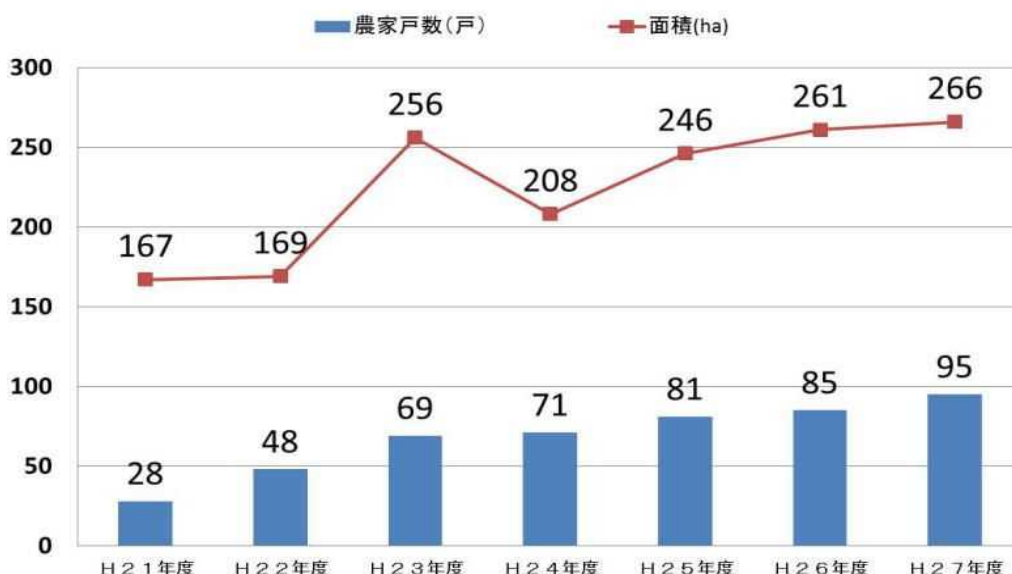
- 有機農業が農業の自然循環機能を大きく増進し、かつ、農業生産に由来する環境への負荷を低減するものであることから、農業者あるいは有機農業での就農を希望する者等が容易にこれに従事することができる取組を進めます。
- 消費者の安全・安心な農産物に対する需要に対応するため、有機農業者、流通業者、販売業者、実需者が積極的に有機農業により生産される農産物の生産、流通、販売又はそれを利用する取組を進めます。
- 消費者が容易に有機農業により生産される農産物を入手できる取組を進めます。
- 消費者の有機農業及び有機農業により生産される農産物に対する理解の増進を図るため、有機農業者と消費者の連携を促進します。
- 有機農業者や関係者の自主性を尊重し、有機農業を推進します。

第3章 これまでの取組状況

1 有機農業の取組状況

- 農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律(昭和25年法律第175号。以下「JAS法」という。)に基づく認定(以下「有機JAS認定」という。)の取得支援、環境保全型農業直接支援対策を活用した取組の推進、各種研修会開催等による技術の向上等に取り組むとともに、有機の里づくりを進めている臼杵市や大麦若葉やケールなどで健康食品を製造している企業の取組が進んだ結果、平成27年度の県内の有機JAS認定圃場面積は266ha、農家戸数は95戸となっています。平成21年度と比較すると有機JAS認定圃場面積は約100ha増加しており、農家戸数も増加しています。

有機JAS認定圃場面積と農家戸数の推移



有機JAS認定圃場面積：農林水産省公表数値

有機JAS認定圃場農家戸数：大分県調べ

- 平成27年度に実施した県内の有機農業に関する実態調査(調査実施者：おおいた有機農業推進協議会)によると、栽培品目では野菜が最も多く、1戸当たりの平均栽培品目数は9品目と少量多品目栽培が中心となっており、また水稲では大規模化している経営もみられます。販売先は有機農業者自らの販路開拓により確保されており、宅配により直接個人へ届けたり、スーパー、小売店、

直売所及び飲食店などに出荷されています。

- 有機農業での就農を希望する者がいることから、市町村や県内の有機農業者及び関係者、消費者等で構成する「おおいた有機農業推進ネットワーク」が中心となって各種情報の提供や研修先の紹介を行っています。
- 市町が運営する研修制度「ファーマーズスクール」等で研修生を受入れ、先進的な有機農業者の下で就農に必要な技術や知識を習得しています。

2 流通販売支援状況

- 有機農業で生産された農産物の多くは、有機農業者自身による個人宅配を中心とした販売が主流です。有機農業を拡大するためには販路の拡大に加え、消費者の有機農産物に対する理解の促進による県内消費の拡大を図る必要があります。このため大手量販店の流通関係者から有機流通アドバイザーとして助言や指導を受けながら、有機農産物販売コーナーの設置と有機農産物のPRを行いました。

なお、県内の有機農業で生産された農産物の取扱い店舗は43店舗までに拡大しています。

- 先進的な有機農業者と連携して有機農業の新規就農者に対して指導、助言を行うとともに、有機農業生産流通推進研修会を開催して有機農産物等の流通に関する知識の向上を図りました。



(左) 量販店での有機農産物のPR

(右) 有機農業生産流通推進研修会

3 技術開発・普及の取組状況

- 県試験研究機関において有機農業に関する課題を設定し、病虫害・雑草防除技術の開発を行うとともに、県内の有機農業者の実践事例を収集、調査して「大分の有機栽培（基本技術・研究成果・事例集）」（平成24年）を作成しました。
- 有機農業における営農計画作成に参考となるよう県内の先進的有機農業者の経営事例をもとに、水稲と野菜の経営管理指標（平成26年）を作成しました。

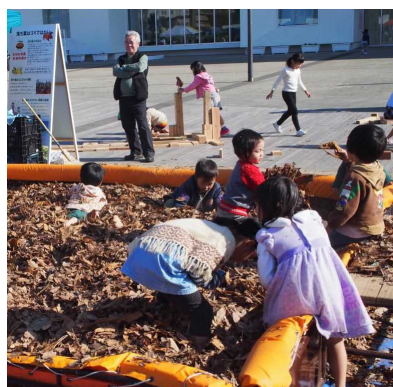
4 消費者の理解と関心の増進、消費者と農家の相互理解

- 大分県農林水産祭において「有機農業・農産物の安全安心コーナー」を設置し、有機農業に対する消費者の理解促進を図るとともに、消費者（108名）に対して有機農産物に関する意識調査を行いました。その結果、有機農産物に興味・関心があり、身近で買えるところがあれば、一般農産物の同程度～2割高程度までなら約8割の方が購入する意向があることが分かりました。

【平成28年度有機農産物に関する消費者意識調査の結果】

- ・有機（オーガニック）という語を聞いたことがある方が91%いるものの（P12：図2）、有機JASマークを知っている方は64%で（P12：図3）、有機農産物の表示の理解は十分とは言えない。
- ・有機（オーガニック）のイメージは「安全」が多く、有機農業が「自然・環境に優しい」という理解は十分とは言えない（P13：図4）。
- ・有機（オーガニック）農産物に興味・関心がある方は、「わりと関心がある」を含めると81%を占める（P13：図5）。
- ・有機（オーガニック）農産物を購入している方は35%で（P13：図6）、購入理由は「安全性が気になったから」、「自分や家族の健康のため」が多い（P13：図7）。
- ・有機（オーガニック）農産物の購入意向のある方は84%を占める（P13：図6）。
- ・有機（オーガニック）農産物を購入していない方は、「身近で買えるところがないから」、「値段が高いから」という理由で購入しておらず（P14：図8）、一般農産物の同程度～2割高程度までなら購入する意向がある（P14：図9）。
- ・有機農業を推進するために実施してもらいたいことは、「有機農産物を購入できる場所を増やす」ことが多い（P14：図10）。

- おおいた有機農業推進協議会が中心となって有機農業技術研修会や生き物観察会、月1回のオーガニックマーケットや年1回のオーガニック・フェスタなど消費者との交流活動を実施し、消費者の有機農業や有機農産物に対する理解を促進しました。



オーガニックフェスタ2016

5 市町村の推進計画策定状況

- 市町村における「有機農業推進計画」の策定割合は28%（5市町）で、市町村段階での有機農業の推進体制の整備が求められています。

第4章 有機農業の推進における課題

1 有機農業者の視点からみた課題

- 有機農業の多くは病害虫や雑草対策等に費やされる労働時間や生産コストの大幅な増加を伴います。また、独自の栽培技術が多く、地域の気象条件・土壌条件等の影響を受けやすいことから生産性や品質が不安定です。
- 有機農業に関する技術情報を収集し、新たな成果や知見を加えて、安定した経営が行える有機農業の技術体系を確立していく必要があります。
- 少量多品目栽培で個々の取引や小口流通を中心とした自己完結型の取引が多いため、流通量の拡大には安定した販路の確保が必要です。
- 一方、個々の有機農業者の供給量ではロットが小さいため、量販店等の需要量に対応できません。
- 販売価格の面では有機農産物に対する消費者の認知度は高まっているものの、その価値が消費者に十分に伝わっていないため、生産・流通に要するコストや労力に見合う付加価値（価格）がついていない状況です。
- 有機農業での就農を希望する者に対して研修先の確保、就農計画の作成、農地や生産環境の整備及び販路の確保など総合的なサポート体制が整備されていないため、就農後の経営の確立が厳しい状況にあります。

2 流通業者・販売業者・実需者から見た課題

- 「有機農業者が点在していること」、「少量多品目であること」、「個々の取引や小口流通が中心であること」、「収量の変動が大きいこと」等の現状から流通業者・販売業者等が効率的・安定的に量を確保できない状況に繋がっています。

<具体的な例>

- ・ 有機農業で生産される農産物の産地情報が分からない。
- ・ 個々の取引ではロットが小さいため安定的な量を確保できない。
- ・ 集荷拠点がないため、小ロットでは物流コストが高くなる。
- ・ 消費者の理解が不十分で廃棄率が高い。

3 消費者からみた課題

- 身近なスーパー等で有機農業により生産される農産物が販売されていないため、関心があっても容易に購入できません。
- 「価格が高い」、「虫がいそう」などを理由に購入を敬遠する消費者も多くいます。

第5章 有機農業の推進に関する目標

1 有機農業の拡大

「有機」や「オーガニック」という表示ができる有機JAS制度は消費者の理解を得やすく、栽培基準なども明示されているため有機農業に取り組む指針の一つとなっています。このため有機JAS圃場面積を400haへと拡大することを目指します。

	現在（H26）	目標（H33）
有機JAS認定圃場の面積 (農林水産省公表数値)	261ha	400ha

2 市町村の推進計画策定状況

有機農業の推進のためには、市町村の取組が重要となることから、推進計画を策定し、積極的に有機農業を推進する市町村の割合を50%（9市町村）に拡大することを目指します。

	現在（H27）	目標（H33）
市町村の推進計画策定割合	28%（5市町）	50%（9市町村）

第6章 施策の展開方向

1 有機農業者の確保・育成

- ファーマーズスクール設置市町やNPO法人おおいた有機農業研究会と連携しながら新規就農相談セミナー等を通じた有機農業での就農を希望する者の情報を収集し、相談に応じながら新規就農希望者の確保に取り組みます。
- 有機農業での就農を希望する者に対しては、市町が運営するファーマーズスクール等への受入れ支援を行い、先進的な有機農業者の下での技術や知識の習得、併せて農地や住居の確保等をサポートすることにより円滑な就農を支援します。
- 有機農業の生産、流通、販売等に係る取組や共同利用機械・施設の整備への支援を行い経営確立に繋げていきます。
- 農地確保や規模拡大のため、農地中間管理事業による農地集積や圃場整備事業などを活用しながらゾーニングによる有機農場の団地化を促進します。
- 県内の有機農業者、消費者及び加工・飲食・流通業者で構成する「おおいた有機農業推進ネットワーク」や先進的な有機農業者と連携した研修等を開催するとともに、技術交流や情報交換の機会を拡大し、技術力や販売力の向上を図ります。
- 大分県産農産物の安全性を確保する基準を実施して認証する「安心いちばんおおいた産農産物認証制度」の活用を推進するとともに、有機農業への転換など段階的な取組を推進します。
- 消費者等への信頼を確保するため有機JAS認定制度を周知し、その意義や申請方法を学ぶ機会を提供し認定取得を進めます。
- 環境保全型農業直接支援対策等の活用による支援を行い、有機農業の取組を拡大します。

2 有機農産物等の流通・販路拡大

- 先進的な有機農業者を核としたグループ化による品目数、量及び品質の確保や計画生産など共同出荷の取組を促進します。
- 有機農産物の販路拡大のため、量販店等での販売コーナーの設置を働きかけます。
- 量販店等の需要に対応可能な品目、量、品質を確保するため、有機農産物販

売ネットワークの構築を進めます。

- 企業や関係団体が開催する有機農業者等と流通・販売業者との商談会への参加など有機農業者の販路拡大のための活動の支援に努めます。
- 6次産業化の取組及び地場加工業者等と連携した農商工等連携の取組による需要の創出・取引拡大に向けた支援に努めます。

3 有機農業に関する技術の開発・普及

- 有機農業者が必要とする技術を的確に把握し研究開発に反映させるとともに、他県等の試験研究機関等が開発した技術を含む新たな技術を適用するために必要な実証試験等に取り組むよう努めます。
- 地域の実情に応じ、先進的な有機農業者及び民間団体等と連携・協力して、平成26年3月に作成した「大分の有機栽培（基本技術・研究成果・事例集）」や他県等の研究開発の成果を活用し、技術の普及に努めます。

4 有機農業に対する消費者等の理解の促進

- 有機農産物販売コーナーを設置している量販店等と連携し、有機農業者の紹介や食べ方の提案によるPRを行い消費拡大と理解増進を図ります。
- 農林水産祭での有機農業者による有機農産物等の直接販売等を通じて有機農業の有する自然循環機能の増進、環境への負荷の軽減、生物多様性の保全等の様々な機能の知識の普及・啓発を行います。
- JAS法に基づく有機農産物の検査認証制度や「安心いちばんおおいた産農産物認証制度」等について、ホームページや各種パンフレット等を用いながら、消費者に情報提供します。
- 県内の有機農業者、消費者及び加工・飲食・流通業者で構成する「おおいた有機農業推進ネットワーク」の活動を通じて、有機農業者と消費者等が互いに理解を深める自主的な取組と交流を促進します。

第7章 有機農業の推進体制

1 県における推進体制

- 関係課・室との連携により有機農業の推進に関する各種施策をさらに強化し、取り組んでいきます。
- 県は市町村等と連携しながら有機農業で就農を希望する者に対しては就農相談に応じるとともに、有機農業に関する各種情報提供を行います。

2 市町村の推進体制の整備促進

- 市町村における有機農業の推進方針、推進方策等を示した推進計画の策定を促進するとともに、地域の実情に即した有機農業の推進体制の整備を支援します。

3 関係機関・団体との連携・協力

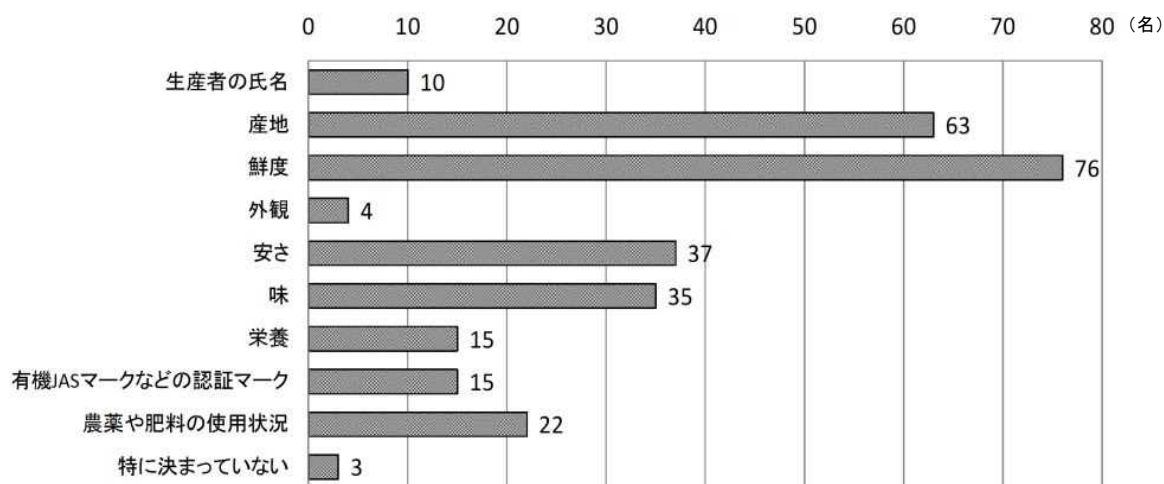
- 有機農業者や有機農業の推進に自主的に取り組む民間団体等をはじめ、流通業者・販売業者及び消費者と連携・協力して、有機農業の推進に取り組みます。

(参考資料)

平成28年度有機農産物に関する消費者意識調査（大分県調査）

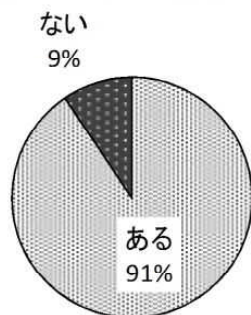
- ・調査時期 平成28年10月
- ・調査場所 大分県農林水産祭（別府公園）
- ・調査人数 108名（女性74名、男性34名）
- ・年代 30代未満：18%、40代：19%、50代 20%
60代：22%、70代以上：21%

図1 農産物を購入するときの目安



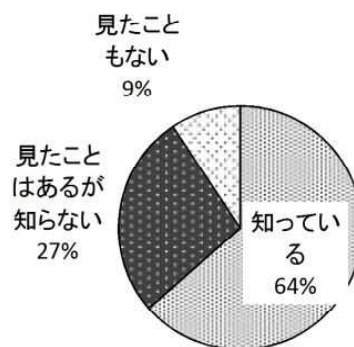
(回答者数：108名)

図2 有機（オーガニック）という語を聞いたことがあるか



(回答者数：106名)

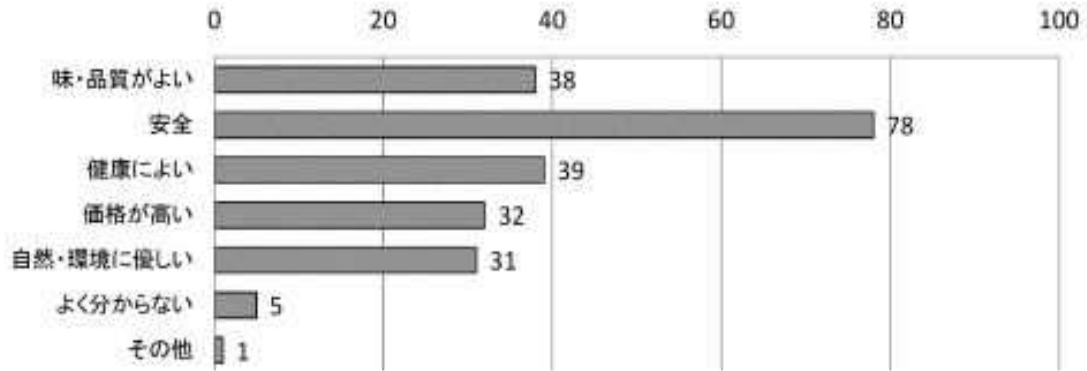
図3 有機JASマークを知っているか



(回答者数：107名)

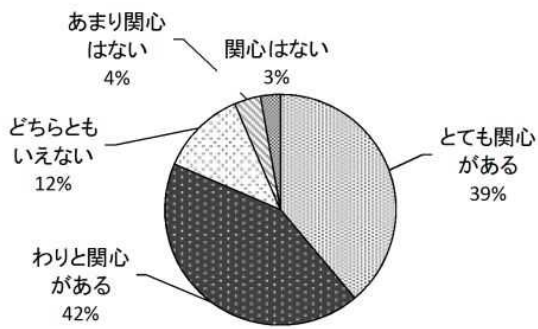
図4 有機（オーガニック）のイメージは

(名)



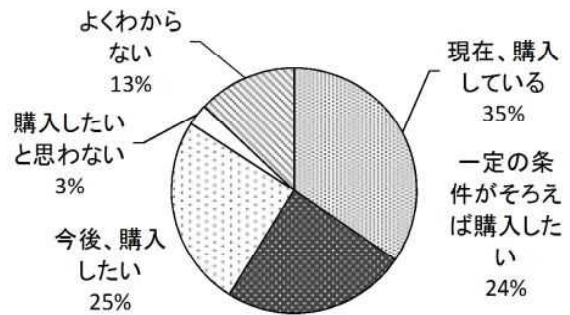
(回答者数：108名)

図5 有機農産物に興味・関心があるか



(回答者数：106名)

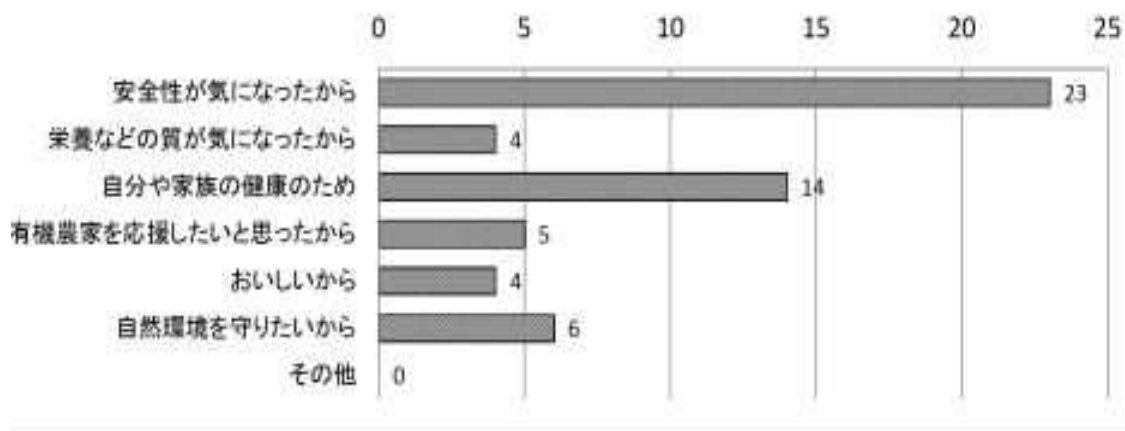
図6 有機農産物の購入について



(回答者数：108名)

図7 有機（オーガニック）の農産物を購入している理由

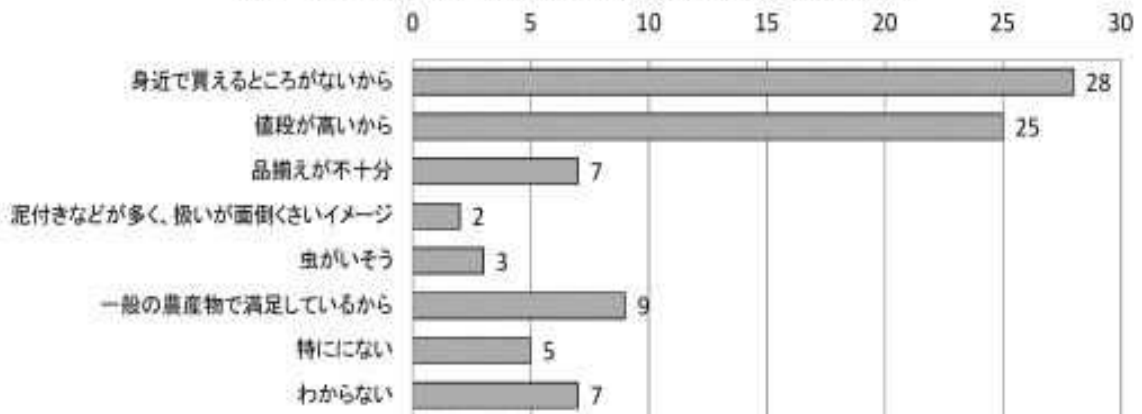
(名)



(回答者数：現在、購入している方 37名)

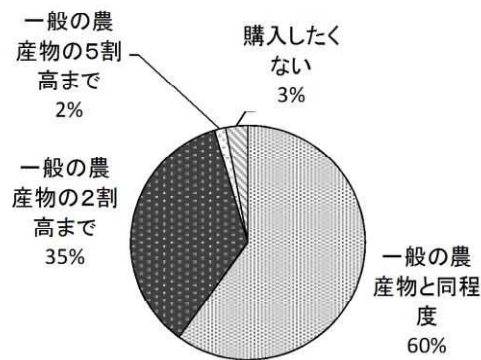
図8 有機（オーガニック）の農産物を購入していない理由

(名)



(回答者数：現在、購入していない方 70名)

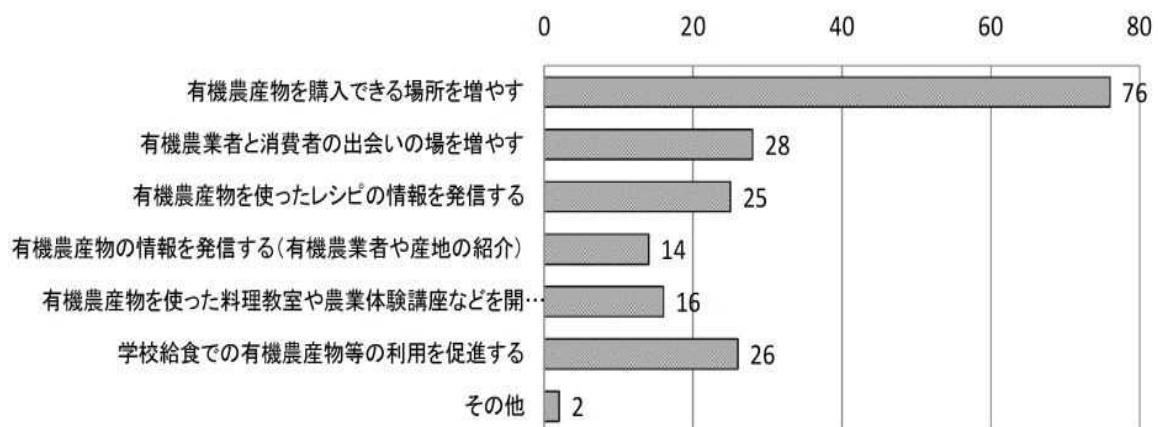
図9 有機農産物の購入価格について



(回答者数：現在、購入していない方 65名)

図10 有機農業を推進するために実施してもらいたいこと

(名)



(回答者数：108名)